

ブルーギルは大型の動物プランクトンを選択的に捕食する

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-06-04
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 坂野, 博之
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006799

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



ブルーギルは大型の動物プランクトンを選択的に捕食する

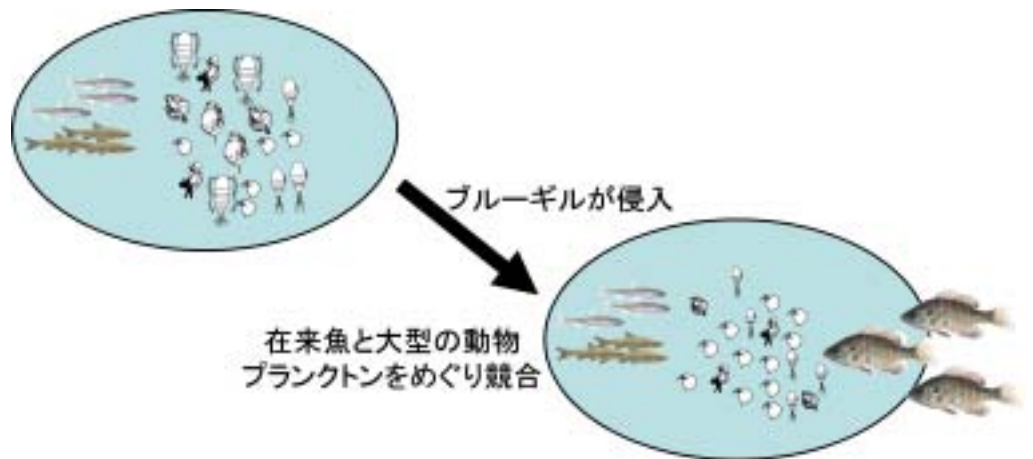
内水面研究部 資源生態研究室

背景・目的

1. ブルーギル *Lepomis macrochirus* による在来種への悪影響が推測されている。
2. ブルーギルによる在来種への影響は、餌をめぐる潜在的な競争や捕食によることから、ブルーギルの摂餌生態の解明が求められている。
3. ブルーギルの主たる餌料であることの多い動物プランクトンは多くの魚類や仔稚魚の初期餌料でもある。したがって、ブルーギルがどのような動物プランクトンを選択的に摂餌するかを明らかにする必要がある。

成 果

1. 二つのため池に生息するブルーギルでは動物プランクトンが重要な餌料の一つとなっていた。
2. 日和見的な摂餌生態を持つと考えられているブルーギルは、動物プランクトンに関してはサイズ選択的に大型の動物プランクトンを摂餌する。



波及効果

1. 動物プランクトンを摂餌する在来魚やその仔稚魚の保護に当たり、外来魚ブルーギルの悪影響を評価できるようになる。

連絡先 坂野博之

協力機関 三重大学(生物資源学部 生物圏生命科学科 淀 太我)